

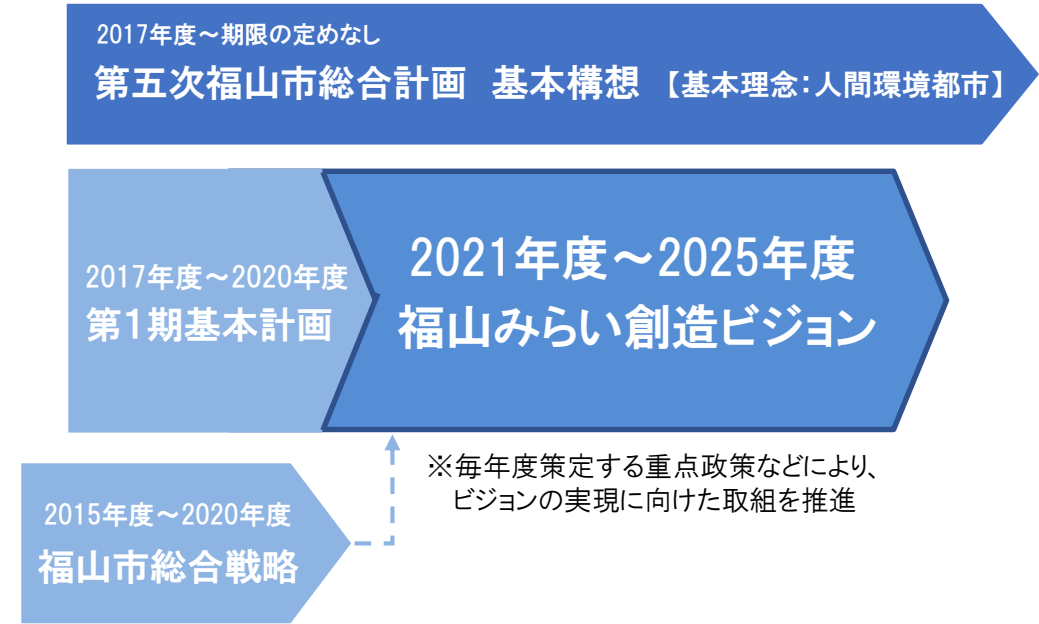
福山みらい創造ビジョン

- ・ 概要、2023年度の取組状況 など

1 福山みらい創造ビジョンの概要

(1) 福山みらい創造ビジョンの策定

- ・市民一人一人の安心な暮らしと希望が実現する都市をめざし、策定
- ・「福山市総合計画基本計画」と「福山市総合戦略」を一本化した本市の最上位計画



(2) 福山みらい創造ビジョンの推進体制

◆ 福山みらいづくり懇話会

福山みらい創造ビジョンの策定・変更、ビジョンに基づく施策の実施及び効果を検証するために設置（各種団体の代表で構成）

◆ 福山みらいづくり推進会議

福山みらいづくり懇話会の意見に基づく具体的な連携の検討、調整、その他必要な調査及び研究のために設置（各種団体の事務局で構成）

(3) 福山みらい創造ビジョンの施策体系(新5つの挑戦)

- 挑戦1** **福山駅周辺の再生加速とグローバル都市の創造**
 - 1-1 福山駅周辺の玄関口機能の強化
 - 1-2 戦略的な観光振興
 - 1-3 MICEの推進（世界バラ会議）
- 挑戦2** **希望の子育てと寛容で健やかな社会の実現**
 - 2-1 福山ネウボラの強化
 - 2-2 人生100年時代の健康づくりと感染症対策の強化
 - 2-3 医療提供体制の強化
 - 2-4 福祉の充実
- 挑戦3** **人や企業が安心・安全に活躍できる都市環境の構築**
 - 3-1 循環型地域経済の形成
 - 3-2 多様な働き方と新たな人の流れの創出
 - 3-3 農林水産業の振興
 - 3-4 都市基盤の強化
 - 3-5 防災・減災の推進
 - 3-6 安心・安全な暮らしの確保
 - 3-7 環境にやさしいまちづくり
- 挑戦4** **新たな価値を創出する人材育成と個性光る地域振興**
 - 4-1 未来を切り拓く教育
 - 4-2 多様性ある地域コミュニティづくり
- 挑戦5** **歴史・文化とスポーツによる新たな体験価値の創出**
 - 5-1 歴史・文化の薫るまちづくり（福山城築城400年）
 - 5-2 スポーツによるにぎわいづくり

2 福山みらい創造ビジョンの取組状況

挑戦1

福山駅周辺の再生加速とグローバル都市の創造

【凡例（全ページ共通）】
「↗」 2022年度と2023年度の増減が3%より大
「→」 2022年度と2023年度の増減が±3%以内
「↘」 2022年度と2023年度の増減が3%より小

1-1 福山駅周辺の玄関口機能の強化

- ウォーカブルな都市空間の整備
 - ・福山駅北口広場北側道路の電線類地中化
電線共同溝（電線類格納施設）の完成
 - ・浸水被害軽減に向けた雨水排水機能の強化（東桜町地区）
雨水管渠整備の基本設計
 - ・三之丸駐車場への駐輪場完成（約200台分増設）
- 官民連携によるにぎわい創出の取組
 - ・NEW CASPAの完成
 - ・商店街等による実証事業（商店街歩道の芝生化など）
 - ・商店街のにぎわい創出に向けた取組の支援
（ワイン普及イベントなど）

1-2 戦略的な観光振興

- インバウンド誘致、広域観光の推進
 - ・飲食店メニューの多言語化支援
 - ・備後圏域・高梁川流域連携事業
日本酒、ワインをテーマにしたツアーの実施
 - ・しおまち海道サイクリングルートの整備
大門、松永・動物園サブリートの路面整備など
- 観光資源の発掘・磨き上げ
 - ・福山城を核としたナイトタイムエコノミー基本方針の策定
 - ・仙酔島活性化に向けた取組
旧国民宿舎の解体、跡地利活用の優先交渉権者決定
 - ・国土交通省「ガーデンツーリズム登録制度」への登録

1-3 MICEの推進（世界バラ会議）

- 世界バラ会議福山大会準備の本格化
 - ・大会プログラム、プレ・ポストツアー訪問先の決定
 - ・ばら公園のリニューアル工事、植栽デザイン整備の概成
 - ・市民・企業提案型事業の募集
 - ・School Rose Garden Projectの実施
- 新たなMICE誘致の促進
 - ・福山らしさのある会場でのMICE開催（福寿会館など）

数値目標・KPI	2025年度 目標値	基準値	2021年度	2022年度	2023年度	前年度から の推移
福山駅周辺のウォーカブルエリア内の歩行空間の割合	約60.0%	約50.0% (2020年度)	約50.0%	約55.0%	約55.0%	↗
総観光客数	6,600千人 (2025年)	6,296千人 (2019年)	3,541千人	4,357千人	5,297千人	↗
観光消費額	342億円 (2025年)	327億円 (2019年)	210億円	326億円	408億円	↗
MICE開催件数	77件	53件 (2019年度)	18件	32件	44件	↗
世界バラ会議福山大会開催の市内認知度	80.0% (2025年)	19.8% (2019年)	25.8%	35.6%	45.2%	↗

主な委員意見
・ 当社は9月にトモテツビル内への移転を予定しており、街のにぎわいに一役買おうことができればと考えている。<u>駅の南西側はある程度開発されたが、一方で南東側はまだまだ開発余地が大きいと考える。玄関口としての機能強化のためには、一層の開発強化が求められるのではなかろうか。</u> ・ 新たにオープンしたNEWCASPA等により、多くの人が集うだけの魅力があるのかは疑問。国交省の掲げるコンパクト・プラス・ネットワークのコンセプトは、<u>蔵王、駅家、神辺、松永など一定の集客力のある町が点在している福山市に適したコンセプトだと思われるため、その観点での施策も合わせてご検討いただきたい。</u> ・ インバウンドの推進には、日本らしいと感じられる歴史・文化や<u>福山独自の歴史・文化</u>など外国人受けする事象のPRが必要と考える。 ・ 新たなMICE誘致のため、<u>「産・学・官のより一層の連携強化」「国際会議の誘致推進」に注力してはどうか。</u> ・ 世界バラ会議については、大会が来年に迫る中、<u>2023年度の認知度が50%に満たないことを考えると、一層の周知活動が必要と考えます。</u>

2 福山みらい創造ビジョンの取組状況

挑戦2

希望の子育てと寛容で健やかな社会の実現

2-1 福山ネウボラの強化

- 社会全体で子ども・子育てが大切にされる環境づくり
 - ・子ども未来づくり100人委員会立ち上げ
- 相談しやすい体制づくり
 - ・ネウボラ相談窓口「あのね」による支援
 - ・ペアレントメンターによる相談会
- 子育て世帯の負担軽減
 - ・子ども医療費助成の所得制限を撤廃
 - ・出産・子育て応援金の支給
 - ・低所得の妊婦への初回産科受診料の補助
 - ・病児・病後児ベビーシッター派遣の試行実施
 - ・えほんの国、キッズコム利用者へ駐車場利用料の助成
- 保育環境の充実
 - ・保育士等復職支援コーディネーターの配置
 - ・新たに就労した潜在保育士への就職支援金
 - ・全公立保育所・こども園へのスマート保育の導入
 - ・医療的ケア児の受入れ環境整備
 - ・放課後児童クラブの開設時間延長
 - ・首都圏への「働きやすいまち福山」のPR
保育業界誌「MiRAKUU」に特集ページ掲載

2-2 人生100年時代の健康づくりと感染症対策の強化

- フレイル予防・介護予防の推進
 - ・フレイルサポーターによるフレイルチェック会の実施
 - ・アプリ「健康マイレージ」を活用した健康づくり
- 認知症対策の実施
 - ・認知症カフェの開設
 - ・認知症サポーター養成講座の実施
- 高齢者のデジタル活用促進
 - ・スマートフォン購入と使い方等の一体的支援
- 新型コロナウイルス感染症対策
 - ・オミクロン株対応ワクチン追加接種（春・秋）の実施

2-3 医療提供体制の強化

- 医師・看護職員の確保
 - ・岡山大学との連携による小児救急・周産期医療体制の確保
 - ・中学生向け看護体験、高校生向け進路相談会の開催
 - ・医療版ワーケーションの実施
 - ・経済的に困窮する看護学生への支援金
 - ・初期臨床研修医及び専攻医への研修費支援
- 福山市民病院の機能強化
 - ・福山市民病院新本館Ⅰ期建設工事に着手
 - ・手術支援ロボット「ダヴィンチ」の更新・増設

2-4 福祉の充実

- 高齢者、障がい者への支援体制の強化
 - ・高齢者等ごみ出し支援モデル事業の実施
 - ・配食サービス（週7食）の提供
- 重層的支援体制の整備
 - ・複雑・複合的な課題のある方（家族）へのサポート体制の整備（関係機関による会議体の設置、伴走型支援の実施）

数値目標・KPI	2025年度 目標値	基準値	2021年度	2022年度	2023年度	前年度からの 推移
「この地域で子育てをしたいと思う親」の割合	96.0%	92.3% (2019年度)	94.7%	94.3%	92.9%	
要介護（要支援）認定率（「要支援1」認定者）	5.3%以下	5.4% (2019年度)	5.4%	5.5%	5.4%	
要介護（要支援）認定率（認定者全体）	22.2%以下	21.1% (2019年度)	21.0%	21.1%	21.3%	
小児科医師数 (福山市民病院)	11人	6人 (2019年度)	11人	10人	11人	

主な委員意見
・ 少子化対策（未婚化・晩婚化対策）として、結婚前の20代～30代の若者に対する雇用、住宅、教育等における（経済的）支援が重要であり、こうした点についても配慮をいただきたい。 ・ 待機児童ゼロに向けた保育人材の確保、施設の整備、充実のための大胆な予算投下を行う必要があるのではないか。 ・ 人生100年時代の健康づくりのためには、健康寿命を延ばすことが大切であり、市としても健診受診率の向上に積極的に取り組むことも重要であると考えます。 ・ 福山夜間小児診療所における昨年度までの医療版ワーケーションへの出務人数は、延べ15名（計37日間）となり、今年度も出務していただいております。小児科医師の夜間出務の負担軽減につながっている。引き続きワーケーション事業の情報発信・継続をお願いすると共に、出務いただいた医師の福山地域への誘致につながるような医師確保の取り組みにつながることを期待している。

2 福山みらい創造ビジョンの取組状況

挑戦3

人や企業が安心・安全に活躍できる都市環境の構築

3-1 循環型地域経済の形成

- 市内企業の更なる成長や人材確保の促進
 - ・グリーンな企業プラットフォームの立ち上げ
- 備中備後ジャパネニウムプロジェクト
 - ・市場調査・分析、事業者ヒアリング、意見交換会の開催

3-2 多様な働き方と新たな人の流れの創出

- 多様な働き方による人材の確保
 - ・兼業・副業人材と圏域内企業のマッチング
 - ・移住支援金の拡充（テレワーク型）
- 幅広い人材の活躍支援
 - ・女性の就業環境整備への補助
 - ・奨学金返済制度の導入企業への補助
 - ・中途採用者向け合同企業説明会の開催

3-3 農林水産業の振興

- 農業法人の誘致促進
 - ・農業法人の誘致・参入企業の営農開始までの伴走支援
- 有害鳥獣対策の強化
 - ・サルの群れ捕獲に向けた生息調査（GPSの活用）
- 漁獲量増加に向けた海の環境改善
 - ・海底耕うんの実施

3-4 都市基盤の強化

- 交流・物流ネットワーク機能の強化
 - ・福山道路、福山沼隈道路、福山西環状線の整備
- 成長産業の受け皿整備
 - ・福山北産業団地第2期事業 造成完了

3-5 防災・減災の推進

- 災害に強いインフラ整備
 - ・抜本的な浸水対策
 - ・ため池の安全対策
 - ・学校施設の耐震化（市立小中学校の耐震化完了）
- 地域の防災力強化
 - ・総合防災訓練の実施
 - ・津波避難計画の策定支援

3-6 安心・安全な暮らしの確保

- 生活環境の整備
 - ・水路等転落事故防止対策
 - ・路面標示3か年集中対策
 - ・危険空き家の除却支援
 - ・春日池公園のインクルーシブ遊具完成（2024年5月オープン）

3-7 環境にやさしいまちづくり

- 脱炭素社会の実現に向けた取組
 - ・ふくやま環境美化センターの整備
 - ・太陽光発電等の導入支援
 - ・事業者向けの省エネ設備改修補助
- ※毎年度、3年度前の結果が最新値として公表されます。

数値目標・KPI	2025年度 目標値	基準値	2021年度	2022年度	2023年度	前年度から の推移
市民一人当たりの分配所得	3,039千円	2,948千円 (2017年度)	2,992千円	- ※	- ※	-
ふくやまワーク・ライフ・バランス認定事業者数	155事業者	123事業者 (2019年度)	140事業者	141事業者	137事業者	
市内大学卒業生の地元就職率	32.5%	28.5% (2019年度)	27.4%	26.4%	27.7%	
青果物・水産物の市内生産・漁獲流通額	875,710千円	858,904千円 (2019年度)	890,332千円	895,553千円	868,391千円	
防災リーダーの登録者数（累計）	570人	335人 (2019年度)	262人	347人	421人	
ごみの排出量	142千t	153千t (2019年度)	150千t	145千t	139千t	 ※排出量削減

主な委員意見
・ 市内全体の消費を大きく循環させる企業を増やす観点から、<u>業歴の浅い企業を中心に雇用支援などといった助成等の対策は有用ではなかろうか。</u> ・ <u>グリーンな企業プラットフォームの立ち上げ等は行われているが、ふくやまワーク・ライフ・バランス認定事業所の認定数は横ばい（2023年度は減少）であり、認知度を含め、認定事業の強化が必要</u>と考える。 ・ 人材確保策の具体策を更に進めてほしい。<u>外国人の高度人材確保策について、行政と共に考えてまいりたい。</u> ・ 海の環境改善のためには、<u>藻場の整備が必要で、当大学はアマモの育成方法などノウハウを蓄積している。</u> ・ 都市基盤の強化において、<u>幹線道路網整備は骨格的事業であり、早期の進捗を望む。</u> ・ <u>新たな産業団地の検討に取り掛かってほしい。</u> ・ 脱炭素社会の実現に向けて、<u>太陽光パネル、省エネ家電導入補助のみではなく、広い視点での再エネ調達、エネルギーの循環についても検討を始めるべき。</u>

2 福山みらい創造ビジョンの取組状況

挑戦4

新たな価値を創出する人材育成と個性光る地域振興

4-1 未来を切り拓く教育

- 福山100NEN教育の推進
 - ・学校図書館の整備
全市立小中学校の学校図書館整備完了
 - ・加茂小学校、加茂中学校の開校
 - ・民間施設等を活用した水泳授業の実施
 - ・休日部活動の地域移行に向けた検証
- 福山市立大学の機能拡充
 - ・小松安弘記念館（複合施設）の整備
 - ・「福山市立大学新学部設置基本構想」の策定
- （仮称）子ども未来館の整備
 - ・事業手法、整備場所等の検討に係る調査の実施

4-2 多様性ある地域コミュニティづくり

- 持続可能な地域コミュニティの形成支援
 - ・ふくやま地域づくり塾の開催
 - ・まちづくりシンポジウムの開催
- 地域の新たな魅力の創出
 - ・地域未来ビジョンの策定支援
 - ・遊休施設の利活用促進
民間提案制度の公募開始
 - ・FUKUYAMA ParkLife LABの開催
春日池公園パークライフビジョン2023に意見を反映
- まちづくりの拠点整備
 - ・（仮称）まちづくり支援拠点施設の整備
実施設計、旧福山市体育館解体工事に着手
- 多文化共生の推進
 - ・ふくやま多言語サポーターの養成
 - ・SNSによるオンライン外国人相談

数値目標・KPI	2025年度 目標値	基準値	2021年度	2022年度	2023年度	前年度からの 推移
学力の伸びた児童生徒の割合	75.6% ※市内全校	65.6% (2020年度) ※2中学校区	69.6%	72.6%	71.1%	
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」児童生徒の割合（小学校）	80.0%	77.7% (2019年度)	72.8%	73.5%	76.5%	
ボランティア・NPOなどの市民活動団体数（まちづくりサポートセンター登録団体（企業）数）	220団体・社	188団体・社 (2019年度)	208団体・社	223団体・社	234団体・社	
地域のまちづくりの拠点となる交流館数（改築・改修済施設）	13か所	3か所 (2020年度)	4か所	7か所	7か所	

主な委員意見
・ 福山市の未来を支える子どもに対する直接的な投資が少ない。子ども世代が福山市に対して高いロイヤリティを持つことは非常に重要な要素であるため、<u>学校活動における支援、グローバル人材に資する支援（海外派遣など）、SDGs理解への取組に対する支援など様々な領域における支援を期待したい。</u> ・ 教育を実践していくのは教員なので、<u>生徒に向き合う時間の拡大（事務業務のデジタルによる効率化、時間短縮）、優秀な教員の定着、確保に向けた取組も必要</u>と感じている。 ・ 9月から供用が始まる小松安弘記念館では、<u>2027年4月に開設予定の情報工学部の広報も兼ね、福山市内の小学生・中学生を対象としたロボットコンテスト等を開催する計画。</u> ・ ボランティア・NPOなどの市民活動団体数が増加し、目標数値を達成。<u>今後はそれぞれの団体が行う地域振興に資する取組を深めていくことが重要。</u>

挑戦5 歴史・文化とスポーツによる新たな体験価値の創出

5-1 歴史・文化の薫るまちづくり

- 福山城の新たな魅力創出
 - ・城泊（キャッスルステイ）の実証事業
 - ・天守最上階「天空の間」の夜間一般使用開始
- 歴史・文化資源の保存、磨き上げ
 - ・福山城伏見櫓・筋鉄御門防災設備の整備
 - ・廉塾の講堂組立工事及び駐車場の舗装整備
 - ・宮澤喜一記念館の整備
- 文化・芸術に触れる機会の提供
 - ・ばらのまち福山国際音楽祭 市内全小学校5年生を招待
- 鞆のまちづくりの推進
 - ・（仮称）鞆町平地区ふれあい広場整備に係る護岸造成
 - ・鞆地区東西交通・交流拠点整備
 - 西側拠点 建設予定地既存建物解体撤去ほか
 - 東側拠点 運営事業者選定手続きに着手

5-2 スポーツによるにぎわいづくり

- スポーツに親しむ機会の創出
 - ・各種スポーツの公式戦等の誘致
 - ・JOCオリンピック教室（オリンピックによる実技指導）
 - ・寄附金を活用したスポーツ振興
 - 原動機付自転車のカープナンバー導入
- スポーツ施設の拠点機能の強化
 - ・竹ヶ端運動公園庭球場の整備
 - 全国大会等の誘致可能な庭球場の工事着手
 - ・緑町公園屋内水泳場の整備
 - 通年利用可能なプールを備えた屋内水泳場の工事着手
- スポーツ施設の利便性向上
 - ・キャッシュレス決済の導入

数値目標・KPI	2025年度 目標値	基準値	2021年度	2022年度	2023年度	前年度から の推移
文化施設などの利用者数（ふくやま芸術文化ホールなどの芸術文化施設）	707千人	550千人 (2019年度)	259千人	470千人	528千人	
文化施設などの利用者数（福山城などの郷土歴史施設）	255千人	135千人 (2019年度)	20千人	169千人	225千人	
市スポーツ施設延べ利用者数	1,450千人	1,053千人 (2019年度)	510千人	902千人	994千人	

主な委員意見

- ・ 体験価値の創出は進んでいるかと思うので、次のステップとしては利用促進に向けた仕組み（予約、申込のデジタル化による一元管理、予約状況の見える化）の構築に期待したい。
- ・ 歴史・文化の薫るまちづくりは、かなり進捗したと評価できるが、廉塾については、保存整備後の運営や利活用に関する具体的な計画が必要。
- ・ 各種スポーツの試合誘致に加え、福山シティFC等の地元のクラブチームとの連携を強化し、市民の健康増進や地域経済の拡大・地域振興につなげ、より一層地域を盛り上げていくことに期待。